

平成 9 年度試験研究成果

区分	普及	題名	平成 10 年度雑草防除基準に採用した飼料用とうもろこし用除草剤「ジメテナミド乳剤」		
[要約] イネ科雑草に卓効を示す飼料用とうもろこし用新規除草剤「ジメテナミド乳剤」を平成 10 年度雑草防除基準に採用する。					
キ・ワード	ジメテナミド乳剤	飼料用とうもろこし	イネ科雑草	畜産研究所 飼料生産研究室	

1 背景とねらい

飼料用とうもろこしの栽培場面においては、その栽培規模も大きく、省力的な栽培管理を行い必要収量を確保するためには効果的な除草剤の利用は必要不可欠である。

飼料作物では適用登録がある農薬は他の農作物に比較し特に少ないが、本年飼料用とうもろこしとして新たに「ジメテナミド乳剤」が登録され、各種試験の結果 1 年生イネ科雑草を中心に除草効果が高く、実用性が認められた。

2 技術の内容

(1) 薬剤の名称及び特徴

ア. 商品名 : **フィールドスター乳剤**

イ. 種類名 : **ジメテナミド乳剤** (試験名: S B - 5 0 8 乳剤)

ウ. 作用機作: 非ホルモン・吸収移行型の土壤処理剤。幼芽部及び幼根部より吸収され、茎葉に移行し、タンパク質生合成阻害による殺草。

エ. 有効成分: **ジメテナミド 76.0%**

オ. 毒性等 : 人畜毒性(急性経口性) 普通物
 魚毒性 製剤 B 類相当
 その他 危険物第 4 類第三石油類

カ. 薬剤性状: 黄褐色粘調液体

(2) 対象作物 飼料用とうもろこし

(3) 使用方法
 飼料用とうもろこしの播種後・出芽前に、薬剤を水で希釈し、土壤に均一散布する。

(4) 使用基準

作物名	使用方法	使用時期	使用量	希釈水量	使用回数の制限
飼料用とうもろこし	土壤処理	播種後出芽前	100 ~ 150ml / 10a	100L / 10a	1 回

3 普及上の留意事項

- 1) 土壤処理剤として使用する。
- 2) 雑草の発生後の処理では効果が劣るので、必ず雑草の発生前に処理すること。
- 3) 除草効果を高めるため、碎土・整地は丁寧に行い、種子が露出しないよう 2 ~ 3 cm 以上の覆土深を確保すること(薬害)。
- 4) 散布後の多量の降雨により薬害(生育抑制)を生じることがあるので、天候を見極めて使用すること。
- 5) シロザ、タデ等広葉雑草には効果が劣るので、これらの雑草が多い圃場では広葉雑草に有効な土壤処理剤との混用利用もしくは、茎葉処理剤との体系利用が望ましい。
- 6) 使用回数は 1 回とする。

4 技術の適応地帯

県下全域

5 当該事項に係る試験課題

なし

6 参考資料・文献

岩手県、(社)岩手県植物防疫協会 「平成 9 年度 農薬展示圃試験成績書」 他

7 試験成績の概要

(1) 試験場成績

ア 農研七畜産研究所(平成9年) 供試品種:スノーデントDK652
 処理時期:とうもろこし播種後発芽前(5月13日、播種後3日)普通畑:厚層腐植質黒ボク土

No	除草剤名	処理量 (ml/10a)	除草効果 残草量無処理区比(%)								薬害	稈長 (cm)	とうもろこし 収量比 (%)
			レト ^ト トップ	ヒシ ^ル 類	イネ ^科 合計	アガ ^カ 類	イビ ¹ 1	イビ ² 1	広葉 ^合 合計	合計			
1	フィールドスター乳剤	100	0	t	t	3	t	78	5	5	無	265	94
2	フィールドスター乳剤	150	0	0	0	10	t	11	9	9	無	267	99
3	フィールドスター乳剤+ ゲザプリムフロアブル(混)	100+200	0	t	t	t	t	16	1	1	無	267	100
4	フィールドスター乳剤+ ゲザプリムフロアブル(体)	100+200	0	0	0	t	t	42	1	1	無	258	102
5	ゲザプリムフロアブル	300	0	0	0	0	t	34	1	1	無	269	96
7	完全除草											264	100
8	無除草		7	2	9	811	113	27	951	g/m ² 960		263	96

(注) 3の(混)はとうもろこし播種後出芽前の混用処理、4の(体)はゲザプリムフロアブルの生育期処理(6月6日:とうもろこし3.0期)により体系処理をしたことを示す。
 とうもろこしの乾物収量:2,394kg/10a(完全除草区)

イ 岩手畜試(平成7年) 供試品種:ゴールドデントXL61
 処理時期:とうもろこし播種後発芽前(5月15日、播種後3日)普通畑:厚層腐植質黒ボク土

No	除草剤名	処理量 (ml/10a)	除草効果 残草量無処理区比(%)								薬害	稈長 (cm)	とうもろこし 収量比 (%)	
			レト ^ト トップ	イビ ¹ I	イネ ^科 合計	アガ ^カ	ツクサ	イタ ^テ テ	イタ ^入 入	広葉 ^合 合計				合計
1	フィールドスター乳剤	100	0	0	0	21	10	28	333	24	21	無	250	98
2	フィールドスター乳剤	150	0	0	0	6	3	21	300	10	9	無	254	100
3	フィールドスター乳剤+ ゲザプリムフロアブル	100+250	0	0	0	0	13	0	0	2	2	無	251	108
4	ゲザプリムフロアブル	300	t	0	t	0	7	0	0	1	1	無	251	107
5	ラッソー乳剤+ ゲザプリムフロアブル	150+250	0	0	0	0	20	0	0	3	3	無	251	111
6	完全除草												252	100
7	無除草		10	117	127	485	122	184	3	794	g/m ² 921		225	87

(注) No. 3及び4はいずれも混用処理
 とうもろこしの乾物収量:2,040kg/10a(完全除草区)

(2) 普及展示成績(平成9年)

ア 滝沢村(盛岡普及セ) 供試品種:バーバラ
 処理時期:とうもろこし播種後出芽前(5月30日、播種後6日)普通畑:火山灰壤土

区分	除草剤名	処理量 (ml/10a)	除草効果 雑草量 (g/m ²)				薬害	判定
			イネ科	広葉	多年生	合計		
			ヒシ ^ル + ヒシ ^ル	アガ ^カ イ他				
試験	フィールドスター乳剤+ ゲザプリムフロアブル	133+166	3	22	0	25	無	A
慣行	ラッソー乳剤+ ゲザプリムフロアブル	250+166	5	12	0	17	無	

(注) いずれも混用処理